

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (228) 7307 番

99.11.12 No. 5043

年末手当貨物超低額回答打破

99・12ダイ改合理化粉碎!

11・25動労千葉総決起集会へ

55歳以上の条件改善を

動労総連合は、11月2日、JR東日本・貨物に対して、年末手当に関する要求を提出した。要求の内容は次のとおりだが、今回の申し入れでは、とくに55歳以上の支払い条件の改善を求めている。

- 【東日本】Ⅱ基準内賃金の三・五箇月分、【貨物】Ⅱ基準内賃金の三・六箇月分を支払うこと。
- 55歳以上の社員に対する支払いについては、55歳到達時の等級・号俸の百分を算定基礎額とすること。
- 支払いにあたっては、組合所属のよる差別は一切行わないこと。
- 12月3日までに支払うこと。

超低額回答打破へ!

年末手当めぐる交渉は、11月下旬が山場となるが、とくにJR貨物は、経営の破たんを理由としてまたも超低額回答を強制しようとしている。JR貨物では、この四月のペアは百円玉ひとつ、夏季手当も一・七五箇月あった。夏季手当の東日本との格差は〇・八五箇月分に及び、貨物に働く仲間たちの生活は深刻な状況だ。

しかも貨物当局は、すでに春闘の過程から「一年間の臨給は三・五箇月」などと公言して、超低額に抑え込む意志をあらわにし、さらに賃金抑制攻撃ばかりが、闇雲な大合理化を強行しつづけている。

国鉄分割・民営化の強行によって招いた矛盾・その政策的破たんを、13年が経つ今も現場の労働者に転嫁しつづけるようなやり方は断じて許せない!

JR総連・貨物労は、会社の手先となり、「思い切って我慢する」などと公言し、どんな回答でも受け入れようとしている。「国

11・25動労千葉総決起集会

- ▼貨物超低額回答打破!
- ▼12月ダイ改合理化粉碎
- ▼11月25日(休)/13時30分
- ▼神田パンセ(水道橋下町)
- ▼指定列車/千葉12時26分

鉄改革」が大失敗に終わったことを認めれば、自らの立脚点が吹きとんでしまうため、当局との結託を深め、裏切りに続く裏切りを重ねているのである。もう我慢はできない。今こそ貨物労働者に向けて立ちあがる。貨物に働く仲間の怒りの声を組織全体のものとして、超低額回答打破に向けて全力で闘いを強化しよう。

運転保安確立に向け

JR東日本での12月ダイ改合理化粉碎に向けた闘いは、いま連日にわたる団体交渉が行われている。しかし千葉支社は、度重なるシステムダウン・原因不明の車両故障の多発・コンクリート壁の剥落など、列車をまともに動かすことができなくなっている。運転保安の危機的状況に対し、何ひとつ抜本的な対策をとらうとはしていない。団交のなかでも責任逃れ、その場しのぎに終始するような発言を繰り返し、現状を危機として受けとめようともしないのだ。

例えば、この間問題になっている3052M列車の着発を副本線に変更してしまつた問題でも、区間運転時分を30秒延ばし、第一場内信号機を76mばかり下り方に移設するという対応で、その場しのぎをしようとしている。安全よりも収入が大事だというのだ。また、大月駅事故後、何度も団交を重

ねて確認された「6ヶ月乗り入れていない線区に乗り入れる場合は訓練を行う」という確認事項についても、この間現場には全く周知されないまま放置され、今回の団交のなかで追及し、ようやく12月の訓練で指導することを認めるという状態だ。

JR体制の矛盾は、何よりも安全の危機一列車をまともなる動かすことができないという事態に表れている。東労組との結託体制という異常な経営姿勢がこうした事態を招いた根幹にある。われわれは12月ダイ改闘争を、結託体制打倒・強制配転・士職登用差別粉碎に向けた闘いと結合して、全力で強化しなければならぬ。

スト事前通知を提出

総連合は11月8日、年末手当獲得・貨物の超低額回答打破、12月ダイ改合理化粉碎・運転保安確立に向けた諸要求や強制配転者の原職復帰・士職登用をはじめとした懸案要求の解決に向けて、労働省に争議行為の事前通知を提出した。

また動労千葉は、11月25日、JR貨物本社に近い「神田パンセ」で、総決起集会を開催することを決定した。全支部で闘いの体制を確立しよう。全力で11・25総決起集会に結集しよう!

